

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区玉川 4-16-6
園名	世田谷区立 玉川保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

豊かなところをはぐくむ園庭あそび

<テーマの設定理由>

乳児用と幼児用の園庭があり、子どもたちは日々園庭あそびを楽しんでいる。その園庭あそびの更なる充実を図り、子ども達が様々なあそびや発見、関わりの中から豊かな“ところ”をはぐくんで欲しいと考えた。子ども達の意向を汲み取り、園内 PT として「草花」「虫」「泥」「ままごと」の4つのチームを立ち上げ、すくわく担当者を中心に各チームが連携を取りながら、子どもも職員もやってみたい保育の実現に向けて園庭の整備や改善を進めて行くこととした。

2. 活動スケジュール

- 【春】「園庭でどんなことをしてあそびたいか？」子どもたちからの意見を聞く。
4・5歳児クラスは、5～6人のグループで話し合う。
3歳児クラスは、2～3人ずつ集めて職員が聞き取りを行う。
- 【春】「園庭にどんな遊具があったら楽しいか」「どんな風にあそびたいか」を話し合う。
- 【夏・秋】子どもの意見を汲み取り職員が環境を整えたところで、実際にあそぶ。
- 【秋・冬】保護者に、日々の様子やクラスだより、すくわくだより等を配信・掲示をして活動の様子を伝える。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設

- 「草花」チーム：園庭の端に花壇を作り、花を植え、ままごとや色水にも使えるようにした。雑草も移植し虫を呼べるようにした。（虫チームとの連携）
- 「虫」チーム：大きなプランターに雑草を植えて虫が集まる環境を作った。
- 「泥」チーム：園庭の隅に囲いを設置し、子どもたちがじっくり落ち着いて泥に触れる環境を設定した。
- 「ままごと」チーム：砂場の横に大きな木製テーブルと椅子、子どもがすぐに取り出せるように、素材を入れるローワゴンを設置するなど、ままごとの遊びの充実に取り組んだ。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

園庭において、「草花」「虫」「泥」「ままごと」の4つの環境を設定し、子どもが自ら興味のある場に関わりながら遊びを深められるようにした。

保育者は子どもの気づきや発見に寄り添い、必要に応じて環境を調整したり、言葉掛けを行ったりしながら、探求が広がるように関わった。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

「草花」チーム

子どもと花壇づくりを行う。石や木を取り除き、枯葉や培養土を混ぜるなど一緒に作業をする中で、土作りの大変さや面白さを感じていた。「どんなものを植えたい？」という問いに対して、子どもたちは「ままごとにもつかえるもの」と言うことで一緒に考え、雑草やおもしろい花を移植した。その際、花の色や形に興味を持ち、「これ紫だね」「小さいお花だね」と気づいたことを言葉にする姿が見られた。また、花びらを集めて並べたり、ままごとに取り入れたりと遊びを広げていた。

「虫」チーム

子ども達の目線の高さのプランターに雑草を植えたり、朽ちた丸太を置いたりして、湿ったエリアを作った。虫を見つけると「いた!」「ここにもいたよ!」と、友だちや保育者に伝え観察する姿が見られた。「名前は何か?何を食べるのかな?」という保育士の問いに、「なんでうごくの?」「どこにいくの?」と更に疑問を持つ様子があり、図鑑を広げるなど興味の持続性が見られた。カマキリの産卵シーンも子ども達と観察した。虫の観察を通して異年齢の関わりも増えた。

「泥」チーム

砂とは異なる黒土の泥場を作る。「ここで何しようか?」「どんなことしたい?」という保育士の問いに「お水を入れてみよう!」と意欲的に遊び始める。土と水を混ぜながら「どろどろになった。」「もっと水をいれよう!」と試行錯誤する姿が見られ、繰り返し泥の感触を楽しみながら形や状態の変化に気づいていた。そこから、「泥団子作りたい。」と子どもから声上がる。「泥団子をもっと丸くしたい!」「壊れないようにするにはどうしたらいいんだろう?」と子どもからの問いかけに、泥に関する絵本などを用意し、いつでも見られる環境を整えた。子ども自身が自分たちで絵本をめくり調べ、実践する姿があった。

「ままごと」チーム

「どんな風にままごとを楽しみたいか?」という保育士の問いに、「草や花で色水ごっこやケーキをつくりたい」とのことであった。「すり鉢や透明の入れ物がほしい」という意見を汲み取り、草花や水を入れた時に色がわかりやすいよう透明容器や内側が白い食器、細い木を輪切りにした素材などを用意すると、様々な素材を組み合わせてままごとを楽しむ姿が見られた。また、色水遊びでは、用意したすり鉢を使って草花を丁寧にすりおろし、色の違いや変化に気づき楽しむ姿が見られた。また、子どもがすぐに手に取れるよう素材を入れるローワゴンを購入し扱いやすいよう表示をし、木製テーブルや椅子を多めに揃えることで、子どもたちが集い、楽しめる環境を整えた。自然物を使って「ごはんできたよ」「どうぞ」とごっこ遊びが広がり、異年齢でのやり取りも増え、イメージを膨らませて遊ぶ姿が見られた。子どもたち同士で役割を分担する姿も見られ、関係性や遊びの幅が広がっていった。

「草花」チーム

園庭に花壇を作り、子どもたちと花を植えました！！

R7.12.18 玉川保育園

ある日、幼児中心にどんな園庭にしたいか？子どもたちと話し合いました！いろいろな意見が出てきた中、「おはなはいっぱいえんたいにしたい！」「くさいっぱいにしてむしがきてほしい！」という意見がありました。その話を聞いて、私たち花チームは、すぐわくプロジェクトの一環として園庭を整備し職員で花壇を作り、子どもたちと一緒に花を植えました。活動の様子をお伝えします！

園庭整備・花壇づくり

子どもたちが昼寝をしている時間を利用して、何日かに分けて花壇づくりをしました。大きな木を掘り起こし、根が強い木や根っこに悪戦苦闘しましたが汗だくになりながら頑張りました！



子どもたちと花を植えました！

まず最初に「花」について学びました！職員それぞれで、「季節によって何の花が咲くのか？」「冬の陽も長く咲いている花は？」「蜂が来たら困るので蜂が好きな花は？」「春になったら咲く花は？」など…その結果、チューリップ、シクラメン、パンジー、ヒオウギ、アリッサムにしました！ある日、保育士が花壇に花を植えていると、「なにしているの？」「つたってあげようか？」と年長の子たちが手伝ってくれたり、その後も他のクラスの子たちも植えてくれました！「たくさんおはながあってたいへん！」「みずもあげなくちゃ！」と張り切っていました。



今後は、花を播んで色水にしたり、まきごとの材料にしたりと子どもたちの思いを聞きながら楽しみたいと思います！

「虫」チーム

～玉川保育園にカマキリが遊びに来ました～

令和7年10月21日(火)



9月始め、玉川保育園の園庭にカマキリがやってきました。たんぼ組やちゅうり組が最初は初めてカマキリを見る子どもたちも多かったようです。「これ、なに？」「怖い…」という声が聞こえてきました。が、慣れてくると、指でツツツと触ってみたり、カマキリの様子を眺めて楽しんでいました。

カマキリのおなかがとても大きくパンパンだったため、ばら組やちゅうり組と一緒に「卵なのか？」「それとも他の虫がいるのかも…」と色々な考えが浮かんできました。調べてみると、カマキリのおなかを水につけると寄生虫(ハリガネムシ)がいた場合は出てくるということを知り、やってみました。数分待ってハリガネムシが出てこなかったため子どもたちと、「これはもしかして、メスのおなかにあるのは卵なのかもしない！」となりました。



※保育士からの SOS※

「先生たちもカマキリの事がよく分らないの！みんな、知っていることや調べて分かったことがあったら教えてー！！」



子どもたちに SOS を投げかけると、さっそく園庭で調べたり、カマキリの載っている本を探し出してきて「これにものってるよ！」と見せ合ったり、「エサはこれだよ！」と話し合ったりする姿がありました。「これ見て！(写真を見せながら)お尻を見たらメスカオス分かるって！」「だからこの子はメスだと思う！」と、わかったことや調べたことを話しながら観察をしていました。



<カマキリの捕食シーン>

子どもたちは園庭で虫を見つけると「これカマキリが食べるかも！」と捕まえた虫を嬉しそうにカマキリのカゴに入れていました。

そんなある日…「カマキリが食べてるー！！」なんと、ついに貴重なカマキリの捕食シーンを見ることが出来ました！見られなかった友だちには動画で見せて食べたことを知らせました。すると、さらに子どもたちのごはんをあげたい気持ちが強くなり、虫を捕まえては「エサ捕まえたー！！」とお世話をしていました。



<待ちに待ったその日が…！！>

子どもたちがカマキリとごはんをあげたり、一緒に遊んだり、観察したりして1か月が経ちました…お昼寝から目覚めると、なんとカマキリが卵を産んでいました！保育士も大興奮しながら(大人げないとは思いつつ…笑)「カマキリが卵うんでー！」と子どもたちに伝えると、眠たい目をこすりながら、興味津々でカゴの中を覗いていました。「これなに？」とカマキリの卵鞘をまじまじと観察していました。



すみれ組・ばら組・ちゅうり組にも卵が生まれたことを伝えると色々な角度から観察し、「いつ生まれるかな…」「これが赤ちゃんなの？」「初めて見た！」「僕はね、見たことあった！」とそれぞれの感想が聞かれました。



卵を産んで3日後、お母さんカマキリは役目を終えて眠りにつきました。最後のお別れをして、玉川保育園の園庭に静かに眠っています。

カマキリの子どもたちは冬を超えて卵鞘から出てくるそうです。カマキリと共に子どもたちもいろいろな瞬間を見たり、学んだりしています。引き続き子どもたちと一緒に成長を見守っていききたいと思います。

「泥」チーム

すくわくプロジェクト<泥チーム>

R7.12.25 玉川保育園

すみれ組



ばら組



ゆり組



保育園ではすくわくのプロジェクトの一つとして泥にあそびを取り入れてきました。
園庭の一角を泥にコーナーとして設け、組み立てから砂の移動などすべて保育士がお昼寝の時間などを活用して行いました。
子どもたちは泥や砂の冷たさ、どろっと・ぬるっとした感触など様々なところから刺激を受けて何を作るのかとイメージを膨らませて作ったり、そのイメージを友だちと共有したりしながらあそびを楽しんでいるところ。喜ぶ姿もありますが、元気にあそぶ子どもたちなので、引き続き子どもたちの感性や豊かな想像力を大切にしていながら泥にあそびを楽しんでいきたいと思ひます。お洗濯などのご協力をお願いいたします！

「ままごと」チーム

園庭にままごと用のテーブルセットと ワゴンが仲間入りしました！！

令和 7年 11月27日(木)
玉川保育園



木のテーブルと椅子

お友だちとの会話を楽しみながらままごとをしている子どもたち。ベンチタイプの椅子では、お友だちと隣に座ることができ、会話を楽しみながらままごとをすることができます！



ローワゴン

子どもの目線に合わせた高さになっていて、自分の好きなものを自分で選んで取り出すことができます。可動式なのでテーブルの近くに移動でき、使いたいものをすぐに取り出すことも！



食器

砂だけではなく、葉や花などの植物を使い、食材に見立ててみたり、飾り付けをしたりする姿が見られました。どんなものを入れても、植物をすり潰して入れても、色が分かりやすいよう内側に白い食器を用意しました！



その他の道具

他にも透明のカップや小さなジャベール、木の素材なども用意しました！

☆子どもたちがあそんでいる様子☆

きれいな石見つけたよ！！



マットやロープで囲って...
ここはわたしたちが作ったわたしたちのおうち！



ひっそりと現れた新しい道具の数々。いざ開けてみるとワクワクが止まらない様子で、思わずテーブルから溢れるほど食器を乗せて楽しんでいました！今後展開されていくままごとの様子も配信していきたいと思ひます！

5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

今回の取り組みは、スタート当初、活動の進め方や方向性について迷いがあり、職員間で共通認識を図りながら進めていくことに難しさを感じる場面もあった。

しかし、子どもの姿をもとに振り返りを重ねる中で、視点を共有しあうことの重要性に気づき、少しずつ方向性を揃えていくことができた。また、職員間で意見を出し合うことで、新たな気づきや環境構成の工夫が生まれ、チームとして取り組む意識が高まった。その中で、子どもたちが自ら興味関心をもった環境に主体的に関わることで、遊びを深めていく力を持っていることを改めて実感した。保育者として、活動を主導するのではなく、子どもの気づきや発見に寄り添い、“見守る”関わりの重要性に気づくことができた。

今後は、子どもの主体性をより引き出せるような関わりや環境構成を意識し、一人ひとりの育ちを支えながら保育の質の向上に繋げていきたい。